

## 1 体験先の開拓はどうやって進めれば良いのでしょうか？

## ◎ まずは身近な地域に目を向けて！

- ① 生徒の進路希望を把握する(生徒が自分で体験先を確保することも可能)。
- ② 市区町村の関係部署や地域の経済団体(商会議所など)、同窓会やPTA等との連携も効果的。
- ③ ハローワークやジョブカフェには、インターンシップ受入事業所や実施に係わる情報が豊富。
- ④ 地域産業の特色などから産業・業種別の体験先リストを作成。

## 2 どんな準備が必要なのでしょう？(事前指導)

## ◎ 一過性の行事にしないことが重要！

- ① 一過性の行事にならないような3年間のキャリア教育計画への位置付けが必要。
- ② インターンシップの意義や参加目的などを確認し、体験先の決定を指導。
- ③ 体験先および体験内容についての調査。体験期間中のシミュレーションを入念に。
- ④ 外部講師による講演会の実施により、具体性と緊張感を。

## 3 インターンシップ

## ◎ 体験先との連携を密にして、充実した経験と新しい自分の発見を！

## 事例 1 静岡県立韭山高等学校

## 1 普通科高校における将来を見据えた職業観の育成

- \* 「つなげる」をキーワードに社会と自分、高校生活と自分の未来をつなげることを目指す。
- \* 校長・副校長も加わる「キャリア教育推進委員会」を設置し、組織的にキャリア教育を展開。
- \* 1年生全員がインターンシップ、職業人インタビューのいずれかを体験。
- \* 主なインターンシップ先は、研究所、病院、薬局、銀行、放送局、広告代理店、司法書士事務所など。
- \* 事前・事後学習の充実を図り、体験後には代表者が学年集会で発表して情報を共有する。
- \* インターンシップと学業成績との関連について分析するなど、キャリア教育の効果の実証を試みる。

学校紹介： 明治6年創立 普通科・理数科設置、生徒数895名(平成21年度) / 「進学校における組織的なキャリア教育の取組」について独自に研究。系統的なキャリア教育の一環にインターンシップなどの体験活動を位置付け、学習意欲の向上、進路意識の向上を図っている。

参考資料： 文部科学省教育課程課編集「中等教育資料」平成22年1月号(第2特集 キャリア教育の充実)

## 【体験談】

● 格好いい儲かるから医者になりたい、一生安泰だから公務員になりたい、どうせやりたいことがないから普通のサラリーマンでいいなど、そういった私利私欲で職業を目指すのではなく、その職業に就くことによって皆のために何ができるのかという他者に対する意識が必要だと分かった。(司法書士事務所体験)

● 経験や知識だけでなく、体力や精神力も必要だと分かりました。部活に励んだり、授業に集中したりと身近なところからその二つは鍛えられると思います。日々の努力が将来につながるかと信じ、学校生活と社会生活を大切にしていきたいです。(病院で体験)

## 事例 2 秋田県立能代高等学校

## 2 生徒の自己効力感を高める取組が充実、文武両道が校是の伝統校

- \* 総合的な学習の時間「Will Project」を中心にキャリア教育を展開。
- \* 大学等の高等教育機関卒業後の就職を念頭に、2年生終了までに全員がインターンシップを実施。
- \* 職業の実際を体験し、学業等の学校生活に対する主体的な態度の育成を目指す。
- \* 4月～9月にかけて、組織的・計画的な事前指導・事後指導を実施。生徒の自主性を尊重した体験先の選定。
- \* 全員が「インターンシップレポート(A3判1枚)」を作成。クラス発表、学年発表を通じた情報の共有。

学校紹介： 大正14年創立 普通科・理数科設置、生徒数690名(平成21年度) / 文部科学省指定「高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究」指定校。インターンシップの他、社会人講話、スクールマナー集会、職業研究・学部学科研究、大学出前講座、ライフプランなど、キャリア教育に関する多様な取組を実施し成果を得ている。

参考資料： 秋田県立能代高等学校「Will Project」におけるキャリア教育の取組 平成20年度実施報告書(同校ホームページ <http://www.noshiro-h.akita-c.ed.jp/> よりダウンロード可能)

## 【体験談】

● 「国際協力は相互扶助の関係であり、途上国から輸入している日本は他の国々を援助して当然。ODAを全てカットすれば10年後の日本はない」というJICA職員の言葉が印象に残っている。ボランティアが偽善でないことに確信が持てた。自分が貢献できることを見つけた。(JICAで体験)

● 看護師になりたい気持ちが一層強まりましたが、そのためには学力はもちろん、コミュニケーション能力が不可欠だと痛感しました。学校での生活態度に気をつけ勉強に励みたい。(病院で体験)

## 4 どんな振り返りが大事なのでしょう？(事後指導)

## ◎ 内面の変化を認識させるための指導に工夫を！

- ① 礼状作成や事後訪問などにより、体験先へ感謝の気持ちを伝える。
- ② 日誌等の記録のまとめ、体験全体を振り返る感想文などの作成。
- ③ 発表活動による情報の共有化や比較を通じて、体験のより深い振り返り。
- ④ それに対するコメントやキャリア・カウンセリングを通じて、体験を内在化。
- ⑤ 体験した事業所の方々や保護者を招いての発表会の実施など地域社会との連携を深める。

## 5 どのように発展的に継続できるのでしょうか？

## ◎ 十分な評価と総括が不可欠！

- ① 体験先(事業所等)からのアドバイスや提言への丁寧な対応。
- ② 体験先との緊密な情報交換により活動を継続できる信頼関係を構築。
- ③ 生徒の体験活動や学校の指導体制に対する多様な視点からの評価。
- ④ 成果と課題の検証、取組の総括と次年度への引継ぎ。